

## 令和5年度大泉図書館 図書館利用者懇談会

1. 日時 令和5年10月28日(土) 10時～11時30分
2. 場所 大泉図書館 2階 視聴覚室
3. 参加者 利用者19人 図書館 3人(大泉図書館長、館長代理1人、書記)
4. テーマ 「地域の情報拠点としての大泉図書館を考える」
5. 配布資料 『これからの図書館構想の概要』  
『大泉図書館の事業をご紹介します!』クリップ止め・14枚
6. 次第
  1. 大泉図書館長挨拶
  2. 図書館職員紹介
  3. 事業紹介等
  4. 懇談

### 図書館利用者懇談会 会議録

#### 1. 大泉図書館長 挨拶

皆様、こんにちは。大泉図書館長です。

これから「練馬区立大泉図書館令和5年度図書館利用者懇談会」を開会いたします。

改めまして、本日はご来館いただきまして、誠にありがとうございます。

本日の懇談会ですが、まず前年度の利用者懇談会以降から今年度10月までに実施した事業の一部についてご報告いたします。

後半は、本日ご出席いただきました地域のみなさま、図書館を利用されている団体の皆さま、近隣施設の方々からご意見をいただく時間とさせていただきます。

今年度のテーマは「地域の情報拠点としての大泉図書館を考える」といたしました。

11時30分までの短い時間ではございますが、最後までよろしくお願い申し上げます。

#### 2. 職員紹介

館長代理1人、書記1人

#### 3. 事業紹介等

「これからの図書館構想」概要版は、昨年11月に策定されたものです。本構想は、練馬区の30年後の目指すべき将来像を示した「グランドデザイン構想」、教育・子育て分野の施策の方向性を示した「練馬区教育・子育て大綱」をはじめ、区の様々な計画、構想と関連するものです。

これからの図書館の理念やおおむね 10 年後の将来像、その実現に向けたコンセプトを示します。

「これからの図書館構想」では、4つのコンセプトが掲げられています。今年度の図書館利用者懇談会では、この4つのコンセプトに沿って、昨年度の利用者懇談会以降に実施した事業の中から、いくつかの事業についてご報告しました。

#### 4. 懇談

利用者 藤沢周平と大泉の会です。

まずは、最初の「これからの図書館構想」ですが、これはどこが作ったものなのでしょう。それともうひとつ、コロナとの関係で、図書館は今どんな体制になっていらっしゃるのでしょうか。

図書館 「これからの図書館構想」は、昨年 11 月に練馬区教育委員会によって策定されたものです。今お手元に配布したものが概要版で、その詳しい情報がこちらに載ってまして、構想について詳細が書かれています。

図書館の地域コーナーに、禁帯シールのもので貸出ができるものとそれぞれ 1 部ずつございます。これは他の図書館にも所蔵していますので、閲覧していただければと思います。また、練馬区のホームページからダウンロードすることもできますので、ご確認いただければと思います。

図書館 コロナ禍になって 3 年経ったところですが、今年 5 月に 5 類に移行したことに伴って、図書館としても対応が変わってきたところがあります。状況を見ながらというところがあると思いますが、利用者についてはマスク着用が任意となりました。図書館の座席ですが、若干まだ間引いているところはありますが、厳しい時に比べれば少しずつ開放しています。

図書館で行われる事業については、定員の制限はなくなっています。ただし、感染対策として、窓開けや換気扇による換気を行いながら事業を進めています。

利用者 ひよこと浜中文庫で、この図書館で活動させていただいております。コロナによってちょっと休み期間があったりして再開しまして、何か価値観が変わってきたというか、本当は図書館に行きたいんだけどやっぱり危ないかなと思って、来ない人が増えて約 3 分の 2 くらいのメンバーになりました。作ること読むことが大好きな人たちは基本的に来てくださっておりますが、コロナそして今年の夏の過酷な暑さ、そういうことで足が遠のいてしまっている人、やっぱりちょっと用心しようかなって、コロナよりも熱中症が怖いなという方が増えたためにさらに少なくなりました。秋になって少し、再開して元気が出てきたっていう感じです。今、事業の報告をいただきましたが、たいへん充実した豊かなプログラムが実際に企画され実行されたということは、今まで以上の進歩というか、新しい面だなと思います。あらゆる年代あらゆる人に向けての発信をして下さっているのは大変うれし

いんですけれども、いちばん今問題になってきたのは、あまり高齢化のことについて触れてなかったことが、ちょっと寂しいかなと。本当は、夏でもゆっくり図書館で本を読みたかった借りたい人はたくさんいましたが、足が悪い、自転車に乗れない、公共交通の便が悪くて図書館に行きにくいという人が増えているため、できましたら区全体で、図書館とか地域の体育施設、地区区民館などをうまくつなぐバス便を運営していただくとか、昔は本を貸し出す車が大泉交通公園の側まで来ていたので、図書館に来られない80歳代以上の人たちのために、ブックモバイル(移動図書館)が復活したら、本当は認知予防とか利用者間の交流といった場合も図書館が担っていただけるのとうれしいかなというのが今年の私の希望です。どうもありがとうございます。いつもお世話になってます。

図書館 ありがとうございます。確かに、コロナもそうですが、大泉地域は、夏とても暑いとか、駅から遠いといった地理的なこともありますので、おっしゃることはもともとだと思えます。区全体のバスルートや、ブックモバイルについては、大泉図書館だけで解決することはできないので、こちらのご意見については、光が丘図書館にお伝えします。

今回は「これからの図書館構想」をより皆さんに知っていただくために、こちらのコンセプトに基づいてご報告したため、高齢者向けの事業について言及していませんが、大泉図書館の利用者層を踏まえた事業ということで事業計画を立案していますので、様々な高齢者向けの事業を実施しています。もちろん図書館からの一方的な情報発信ではなくて、こんな形にするのもっと地域の方々に届くのではといったアドバイスをいただくとありがたいです。

利用者 大泉ボランティアコーナーです。

今若者の本離れが進んでることをよくお聞きするんですけれども、大泉図書館さんでもそのような現状があるのかお聞きしたいと思いました。意見としてですが、学生さんのボランティアの相談が増えていて、会議室を使いたいという話が出ていますね。図書館でも会議室を貸していただけるんだったら貸していただきたいということと、目が不自由な方や読み書きが苦手なディスレクシアという障害をお持ちの方がいらっしゃって、文字を読むのが苦手な方に対して音訳テープみたいなものの提供が増えていけばよいと考えているので、ご配慮いただけたらと思います。

図書館 図書館としても若者、中高生そのぐらいの年代になりますと学校生活が忙しくなることもあり、それまで図書館に来ていたのに来館頻度が減ってしまうことがありますが、当館では中高生向けに「本友(ブックフレンズ)委員会」という毎月活動しているグループがございまして、これは大泉図書館の青少年コーナーを活性化しようという趣旨のもとに集まっているグループなのですが、自分たちで青少年コーナーの本棚の展示を行っています。ただ、今年度は若干メンバー数が減ってい

ますが、その下の年代の子供たちによる「ほんとも☆キッズクラブ」というものがあり、これは小学生が活動主体となっているものです。こちら月1回メンバーが集まって、いろんな企画を自分たちで考えて実施しています。こちらは逆に活動が活発で、1年生から6年生までいろんな年代の児童が集まっていて、この小学生の子供たちが中学生になってからも引き続き活動してくれればと思っています。部屋貸しの件ですが、一定の要件はございますが、ご相談いただければそれは対応可能でございます。視覚障害がある方や、ディスレクシアという障害がある方についてですが、障害者サービスは光が丘図書館が担っているところではありますが、利用者からの要望については、光が丘図書館に伝えることができますので、お話しいただければと思います。ディスレクシアについては、昨年度講演会を行って、多くの方にその実態を知っていただけるような活動をいたしました。ディスレクシアがどのような障害であるのか知っていただくのも大切ですが、その先に考えられることとして、ディスレクシアの方たちを支えられるような、その人たちに向けた事業ができないかと考えているところです。あとは、学生のボランティアの方が図書館で何かやろうとしてくださることについては、図書館との連携で何か新しいことができるのではと思っています。

利用者 はつらつセンター大泉と申します。はつらつセンターでも今度12月に、こちらの図書館とコラボをさせていただいて、ブックトークで高齢者の方向けに講座を実施する予定ですが、何か他に高齢者向けのそういったイベントなど、他にこんなコラボレーションしているというものがあつたら、参考までに教えていただきたいんですが。

図書館 大きく分けて、2パターンあると思います。高齢者向けのイベントを当館で開催するものと、あるいは例えばはつらつセンターさんにこちらから伺って何か行うことがあります。まちの駅大泉学園でのブックトークですとか、大泉学園地域包括支援センター内にあるデイサービスセンターへの訪問おはなし会なども行っています。

図書館 今回テーマが「地域の情報拠点としての大泉図書館を考える」となっていますが、情報拠点というと固い感じになりますが、大泉図書館が地域の中で皆さんが集まっていたりしやすい場所だと思っているので、それぞれの年代の方で何か困りごとがあつた時に、情報を発信できるとか、自治体を持つ情報をお伝えするといった地域の要になれたらと思ってこういうテーマをあげていますので、地域のために図書館がこんなことができたらいいのではというようなご意見ですとか、ご要望など、忌憚のない意見をいただきたいです。

利用者 まちの駅大泉学園のNPOで理事をしております。先程から来館が困難な高齢者はどうしたらいいのかというご意見とか、今のはつらつセンター大泉の方のご意見のようなことが出てきます。図書館は本という資産を持っていて、おいでください

というだけでなく、出前という方法があるという発想があることにびっくりしました。私たちも高齢者の食事の会とかやっています。その場所にその年代の方が興味のある本を揃えてブックトークですね、この本はこういう本ですよ、だから、私たちもやはり足腰の弱い方がいらしていますが、非常に本は大好きで、まちの駅のコーナーにはみんなが持ち寄った本が自由に借りられるようになってはいるんですが、やはり図書館の方のすすめてというのは大変効果があってとっても食いついて一生懸命聴いています。そういう事情でもう何度も助けていただいています。

もうひとつ、この図書館構想のコンセプト3のところ、多様なニーズに応える空間の創出というのがありますが、私も先日ここで植物学のプロの方の講演を聴いて驚いたんですが、図書館って本当に多様な文化のニーズがあります。ただ、今の日本の社会全体に外国人、外国籍の人たち、子供もその家族も随分いらっやいます。ですから、何か英語の本を読む会もあるようですけども、何かそういう翻訳機械を置いて読めるとか、あるいはせめて、すべての国に対応するのは難しいでしょうけれども、絵本の1冊でも置いて自分の国のことばで絵本が楽しめたらいいなとか、それからできたら新聞などもいくつかいちばん多そうな国のものが置いてあるとか、そういうこともう本当に必要が迫ってきているんじゃないかなと思います。この構想を読ませていただいた時もそう言いましたけど、いずれ図書館はそれにも応えていかなければならないかなと、そういう気持ちでおります。

図書館 ありがとうございます。「これからの図書館構想」というのは、練馬区の図書館全体として、これからの図書館の理念や、おおむね10年後の将来像、その実現に向けたものです。それを踏まえて、大泉地域にある大泉図書館は、どこに力を入れたらよいかを考えて、事業計画を立案しています。地域の課題や、必要な部分は何かを考えながら、できたばかりの構想ということもあり、悩みながら進めているところです。日本以外の国に根っこを持つ子供たちも当然多くなってきていますが、練馬区内も地域性がありより必要とされている地域もあると思いますが、大泉地域の特性としては、やはり高齢者が多い地域であることから、優先順位をつけて進めていくことになるので、この構想のすべてを均等に実現していくのは難しいと考えています。

利用者 これは今後10年間に対しての構想なので、方向性だけではなくさないで残しておいてほしいという願いで申し上げました。

図書館 ありがとうございます。このようなコンセプトがあつて、それに向けて進めていくとなっている方が、何をどのようにしていくか考える道筋ができてよいのではと思います。ぜひみなさまも、詳細版を図書館で閲覧していただいたり、ホームページが見られる環境がございましたら、ご自宅でご覧いただければと思います。

利用者 大泉学園地域包括支援センターと申します。図書館の近くに大泉学園デイサービ

スセンターという施設がございまして、その2階にございます。日頃から図書館をとでも利用させていただきまして、高齢者の催し物として3ヶ月に1回認知症の人を対象にして、図書館で認知症の人が折り紙に折ってもらったり、ご家族の相談にのったりする事業を行ってございまして、先日も防災ウォークという会を主催しまして、地域の防災倉庫とか防災井戸、消火器のあるところを1時間ぐらい歩いたあとで、この視聴覚室で図書館の職員さんに防災に関する本のご紹介をするブックトークをしていただいて、とても参考になりました。去年は2回行ったのですが、地域変更があったので、今年は1回しかできませんでした。また来年は地域を広げてみたいと思っております。よろしく申し上げます。あと、3ヶ月に1回開催される認知症の会「みかんの会」なんですが、これも地域を歩いたあと図書館で職員の方に、東京と関西の違いとか地方によって同じものなんだけどころいう言い方もあるといったテーマのブックトークをしていただいて、帰った後もすごく楽しかったねという話をしておりまして、また今後とも続けていけたらいいなと思っております。デイサービスの方にも本の読みきかせで来ていただいているんですが、本を読むというよりも演技をしながら話していただいたり、コロナ禍のひどい時は折り紙は差し控えていたんですが、本の読みきかせだけではなくて、折り紙とかいろいろイベント的なことをにしてくださっていて、すごく高齢者が喜んでいたということもあります。今後とも引き続きお願いいたします。

図書館 ありがとうございます。大泉図書館の大きい特徴としては、図書館が主体となっていく事業だけではなく、地域のいろんな方々や様々な施設の方々と、協働というキーワードで一緒に行う形を取っている事業が多くなっていると思います。主体が例えば相手側の施設の方々と、図書館で実施していただく場合でも、図書館としてできるブックトークや本の紹介ということと併せて実施することで、図書館でやる意義を見出せるようにしています。大泉図書館ができて40年以上経っていますので、この地域だったら図書館はあそこにあると皆さんに認知していただいていますし、図書館だったら気軽に行ってみようと思っただけたりする、そういった場所なので、いらっしゃれる方には図書館に来ていただいて様々な催しに参加して何かしら知識や情報を得て帰っていただけるように心がけています。まだまだ足りないところもあると思いますが、アウトリーチ活動として、高齢者施設で事業をすることもありますが、近隣の幼稚園に行つてよみきかせをすることもありますが、近隣にある家庭文庫に図書館のスタッフが行つて、そこで出張おはなし会をしています。家庭文庫ですと個人のお宅でされていることもあり、本の種類や冊数も限られているので、家庭文庫にないような本を図書館からお持ちしておはなし会を行うようにして、何かしら補い合つて地域を豊かにできればいいかと思つていろんな事業をしているところです。

利用者 個人のお宅で文庫をされてるっていうのは知らなかったんですけど、どんな活動

为什么呢。

図書館 練馬区では、子供の本の貸出やよみきかせを行う地域文庫という活動がありまして、活動場所として児童館や家庭があり、個人のお宅で活動をされているのが「家庭文庫」となります。

利用者 練馬おはなしの会と、大泉絵本の会で活動しております。どちらも40年以上関わっているのですが、それで今皆さんのお話を伺っておりまして、利用者懇談会ってこの会が本当に、ここを利用しているいろんな団体の人たちの交流の場になっているなと思ひまして、私は障害のある方のことも少しはやっていたんですが、子供と本のことを主にやってきましたので、自分が高齢者なのにお年寄りのことを考えてませんでした。それでいろんな会があるんだというのを今日はとっても教えられることが多かったです。例えばいろんなところにおはなしの出前をするってということがもし求められているのでしたら、仲間が今60人くらいいて、だいたい日曜日以外は練馬区のどこかの施設でおはなし会をしていますし、学校なんかはコロナでちょっと減りましたが、かなりの学校の授業時間に入っておはなしをお子さんたちに聞いていただいているんですね。ですから、仲間がいっぱいいますのでおはなし会、昔話やなんかを語る会のことですが、そういうのが求められているのでしたら、会に持ち帰って相談することは可能です。おはなしの場を求めている人、結構いると思いますので、またおっしゃっていただければと思います。ほんとにありがとうございました。

図書館 家庭文庫のことについても詳しいかと思ひますので、図書館ができる前は家庭文庫の活動が盛んでしたよね、今もされてる方いっぱいいらっしゃると思いますが、そちらについてもお聞かせ願えればと思います。

利用者 家庭文庫ですか、かつては練馬区に家庭文庫っていう自分の家、地域文庫っていうよりも家庭文庫、自分の家を開放するという文庫がいちばん多い時で50いくつあったんです。だんだんそれが家庭文庫でなくて地域文庫、いろんな施設、開放図書館というようになってきております。それと一方で図書館が充実してきたというか増えてきましたのでね、それで減っていった面もあると思ひますけども、かつては、大泉図書館の真ん前の大泉教会のところにこひつじ文庫がありまして、そこには関わってました。図書館ができて、図書館と文庫は性格違う部分があるというので来る子がいる限りやってましたけども、3年くらいでいよいよひとりも来なくなつたんで閉じましたけど、練馬区は結構子供と本のことに、なんていうかな、今はね違ひますけども、非常に図書館行政は遅れていたんですね、それで地域文庫がものすごく増えたのと、そのころの世代、私の世代は本が読みたくてもない時代だったので、自分が本を読みたかったので子供たちも絶対本は読みたいに違ひないと思ひてそれでそこらじゅうに文庫が生まれたんだと思ひます。土曜日の3時から5時くらいに100人くらい来たんです。すごいんです。でもそれもゲーム

センターとかいろいろできるようになってからどんどん子供たちは本から離れたんじゃないかなあって思います。いろんな状況があります。

利用者 私もめだか文庫という、自分の子供が小さくて赤ちゃんだったので図書館とかに行かれない、だから我が家に来てっていうんで近所の皆様方と一緒に文庫やりまして、その子供がもう40いくつですから。あの頃親しくしていた家族や子供は今でも仲がよくて、それが家庭文庫のよさだと思いますね。その時のお母さんたちとも今でも仲よくしている感じなんですけども、かつての懐かしい時代が、不自由なだけであたたかだったなという思いがします。

図書館 ありがとうございます。

利用者 すばらしい文化があったんですね。全然存じ上げなくて。

利用者 そこは何らかの支援があったんですか。

利用者 例えば子供が20人いたら1年に1冊ですけど好きな本を選んでくださいということで、その分だけいただいていたんです。でも絶対足りないんで、その他に私たちは、その頃大泉図書館はなかったんで、石神井図書館まで自転車で行って団体貸出を自分たちで利用していました。子供乗せて、本を乗せて行っていました。そういう意味で図書館は非常にバックアップしてくれました。だから続いたんです。

利用者 図書館にバックアップしていただくために、みんなで運動はしたんです。みんなで運動して獲得したんです。文庫に来ている子供の数だけ1年間に1冊本を、自分たちで本を選んで買ってもらうということと、それから本の団体貸出を受けるということと、それを何十年前でしょうね、他区に先んじてだと思えます。杉並区の方の人がその様子を聞きに来たことがありましたから。それがこの図書館できて間もなくのことだから40年前ぐらいのことですから、本当に先駆けていたと思います。

図書館 ありがとうございます。今お話しいただいた団体貸出なんですけど、今現在でも区内の学校等に団体貸出を行っていますし、あとは地域集会所などにも団体貸出をしています。高齢向けには、一般書についても団体貸出を施設に対して行っています。貸出しする本に対して一定の約束事はありますが、団体貸出はできます。

図書館 図書館主体の事業、施設との協働の事業を話したんですが、大泉図書館ではいろんな団体が日々学習をしたり、研究をしていらっしゃると思います。そういった方たちの成果発表の場としても図書館を使っていたらいいと思います。今毎年やっているのは2団体なんですけど、自分たちの団体が何かやってきたことを発表したい、図書館をその場として使いたいという、お声かけいただければと思います。図書館としてできることを一緒にやれたらと思っています。漱石の会さん何かございますか。この間講演会をなさいましたね。

利用者 夏目漱石を読む練馬読書会と申します。今のお話を聞いていてちょっと疑問があるんですけど、インターネットに詳しくないんですけど、例えば今大泉図書館で検索



すると、例えば我々の活動がホームページにある種の情報として発信されているのかどうか、聞いたことないのですがどうなのでしょう。外部から情報が来るようなものと、内部から発信するものとの両方あると思います。そして情報拠点とすればね、受ける方と発信する方と両方がコミュニケーションできるような場があればかなり主体的な意欲を持っている団体ないしはグループが、そういうものを利用して自分の主張をして、それと図書館とのコミュニケーションをとっていくと、今回私共の会、10月に漱石の会で公開講座をやりました。ちょっと失敗したと思ったのは、今までだとココネリの掲示板に大きな広告を貼ってもらうんですね。それから17施設にチラシを送っていたのですが、前回多くの方に来ていただきました。我々が考えた情報発信のしかたと、共催でやる場合図書館として、ホームページで開くと、こういうのやってますよみたいなね、そういうものもいいんじゃないかなと思ってるんですけど、いかがなのでしょう。

図書館 図書館で活動する団体の方たちだけのものは、図書館のホームページに上がっていないです。部屋を利用して何か研究したり、学習していただくという部分に関しては、図書館の立ち位置としては部屋貸しというところだけなのですが、例えばこの間の講演会は図書館と協働でしたので、あの講演会に関しては、図書館のホームページに事業報告しています。協働事業ということでしたら、図書館のホームページに上がります。その他に、いろんな団体の方が活動するにあたって、ご自身のグループでホームページなど SNS での情報発信をされているような団体はあると思います。

利用者 今回共催という形でやったのですが、皆さんはどういう形で図書館とジョイントしあっているんですか。私が今皆さんの顔を拝見しますと、いろんな会をやってらっしゃることはわかるんですけど、実際には具体的にどんなことをされているかよくわからないんですよ。それを大泉図書館で検索するとどの団体が何をしているかわかるということはしていらないのでしょうか。

図書館 そういうことはしていないです。

利用者 していないんですね。

図書館 お部屋にいらっしゃって何かされる場合は、部屋利用の団体としてどんな方が利用していらっしゃるのか把握しているだけなので。

利用者 わたしたちはひよこという布の絵本づくりと、それから浜中文庫でわかやまけんさんが集めた英語の絵本を読む会をやってます。うちはなんか恥ずかしいと思うのは、ピンクの紙にひよこ様と書いてある、何々様って書いてあるけれど別にお客さんじゃない、利用者としてあれだから、様までつけてもらわなくてもいいかなって言うように。そして、去年も漱石の会に来る人いないとか、私たちは十分いますとか、何かお互いに苦労して、やはり高齢化とかいろんなことも含めて難しいなって、若者も来てくれたらいいのにとかいろいろなことを話し合ったことを思い

出しました。人が人を呼ぶぐらいの、自分たちに興味を持ってくださる方がいらしたらいけれど、図書館が好きというタイプの人や、自分で本を一人で読みたいという人、いろんなタイプの方がいるので、続けられる範囲で無理なく楽しくできればいいかなって、私はあえて人を増やそうって感じじゃないんです。でも、大泉図書館はそれぞれがわたしの図書館ですという、そしてやはり今日来てみましても、本に出合えるっていう真の目的っていうのがそこにあるかと思います。まあそんなので、自分の楽しい私の図書館としてこのまま続いていくといいなあって思っています。いろいろよくしていただいて感謝しております。

図書館 ありがとうございます。さっきの漱石の会さんのお話で、インターネット上で何かお知らせするというのはしたことがないのですが、以前大泉図書館の地域担当者がここで活動されているいろんな団体のところに伺って取材をして、その団体がどんな活動をしているかをまとめたものを地域コーナーのところでパネル展示をしたことがあります。コロナ禍もあってあまり入っていけなかった時期もあったんですが、それが変わってきたのでまたそういったことをやってもいいのかなって言うように、生身の人間が行って取材して、それをもとに記事を書いたものを図書館のひとつのコーナーで皆さんに見ていただけるような形で周知するという、ちょっとアナログなんですけど、そういった形のことはまた考えていければと思っています。

利用者 ホームページなんかには、ここを利用しているいろんな団体とかこういう団体がありますとか、そういうことも載せるっていうことは難しいということなんですね。どういう団体がどういうことをこの図書館を拠点にしてしているかっていうのはわかると思います。だからそれをどんな形にせよね。それから、浜中文庫、浜中さんの名誉にかけてあれですけど、浜中文庫は初代館長の浜中さんが館長になられた時、この大泉図書館ができた時ももうご病気だったんですけども、亡くなられてその遺族の方が寄付されてそれをもとに英語の本を買った、それが浜中文庫です。

図書館 いろんな団体がどんなことをやっているかを図書館のホームページに挙げるのはちょっと難しいんですが、地域担当が取材したことを図書館の中で展示している、それを事業報告としてそれを図書館のホームページに載せるのは可能かと思いません。

利用者 個人情報の問題もあるから、両方メリットデメリットあるのでしょうかね。

図書館 いろんな団体があって、それぞれこんなことをしてますという話でしたら、それをご覧いただいて、自分もやってみたいという方が、活動日が書いてあったら行ってみようかなって思っていたらよかったです。アナログなんですけど、いい意味でも悪い意味でも大泉図書館って人と人の顔が見える関係を大事にしているんじゃないかなって思うときがあります。

利用者 ちょっとお尋ねをしたいんですけども、図書館の方で1年に1回アンケートを取られていらっしゃいますよね。アンケートの目的というのはそのアンケート用紙には書いてはあるんですけども、またその結果は発表されてますけれども、その結果何を改善したのか、何を改善したらよくなったのか、みんなの助けを借りたのか、そういった効果の検証というところまでの追跡があるのかどうかを知りたいと思います。それから、図書館をととてもよく利用するんですけども、パソコンでの検索で探しきれない場合はスタッフの方にお尋ねするんですけども、大変に残念なことに個人差が目立ちまして、スタッフの力量の差が大きいというのを感じるんですね。それで、相手が何を求めているのかゆっくりとちゃんと聞きだしてほしいんです。具体的なことをお話しすると、ああそれはありませんねというように、答えられる方が増えてきてるなって感じるんです。そういう本をお探しならば、児童書でこんな本もありますからわかりいいんじゃないですかっていうコーディネートして下さる方もいらっしゃいます。その辺どれくらいスタッフの方が、業務になってしまっているのか、本が好きでやって下さっているのかちょっと時々面食らうことがあります。そういったことで、本が好きとか図書館嫌いとかなくなってしまふのはとても残念なことです。その辺のところを把握されていらっしゃるのかどうか、お伺いさせていただければと思います。

図書館 ありがとうございます。まず利用者アンケートですが、今年度は11月3日から始まります。利用者アンケートは練馬区の図書館全館で行っているのですが、アンケート結果が最終的にまとまってホームページ上で公開されるのは遅くなりますが、それぞれの図書館がアンケートをまとめた段階で、結果を毎月提出している月次事業報告書の中で、利用者アンケートでこういう意見が出たということ報告した上で、その意見をもとにどう改善するかといった改善項目をあげて、それに対してどう取り組むか、実際に取り組んだ結果このように改善したという流れで報告しています。ただ、何をどう改善したかを直接一般の方にお知らせできるようなかたちにはなっておりません。いろんなご意見をいただくので、中には不可能なものもありますが、大泉図書館としてできることについては、どうすればよいか考えた上で改善をしていっているところです。解決するまでに時間がかかるものも当然ありますが、いただいたご意見を真摯に受け止めて対応しております。

レファレンス対応について、個人差があるという件はとても耳が痛いお話です。スタッフのレファレンス力を平均化するために研修を実施していますが、なかなか一朝一夕に個人差をうめることは難しいところです。検索のスキルだけではなく、その前に利用者がどのようなことを求めているか、丁寧にインタビューして本当は何を必要としているのかを探り出すインタビュー技術がいちばん根っここのところにあると思っています。すぐに成果が出るというところまでいかないのはありますが、引き続き研修をして進めていこうとしています。本日いただいたご意見も、

職員にきちんと伝えて、それをもとにまた研修していきたいと思っています。

利用者 私は検索していただいた時にちゃんとインタビューしてもらって、私がこういうことを知りたいってただ大雑把にしか言わなかったのに、本当に的確な本を選んでくださったということに驚いたことがあって、それはまだつい最近そんなふうにしたので、職員の方がさっと調べてくださるんだな、そして本を選んでくださるんだなと感心したところだったので、ちょっと今のあれは意外な感じでした。西東京市の保谷駅前図書館にはよく行きますが、そこでは「ここにはないですね」って言って追い返されるみたいなことが何度かあったりします。ちょっとその点は大泉図書館と違うんだなというように思ったところだったので、いろいろうまく機能している場合とたまたま機能しない場合とやっぱりあるのかなって思います。

図書館 先ほど業務として淡々とこなしているのではないかと、本が本当は好きじゃないのではというお話がありましたが、図書館で働くスタッフの根っこには本が好き、人が好きというところがあると思いますし、そういう気質を持った人材を採用して、教育しているので、とりあえずお金がもらえるから働くということではないと私は思っています。そこに力量が伴っていくとよいのですが、引き続き研鑽していきたいと思っています。

利用者 私今日初めてここに出席しました、西本村憩いの森ファンクラブの会長をしています。図書館の向かいにある木がいっぱい茂っている場所で、ファーマーズマーケットで図書館や農家の方と協働していることもあり、今日お声かけいただきました。地域の情報拠点としての図書館ということなので来てみたら、本当にいろんな方が図書館を使っているということでもずびっくりしております。私たちは基本野外活動なので中には来ないんですけども、図書館の階段の踊り場にどんな活動をしたかという会報を貼っていただいているので、そこでそれを見た子供たちが森に遊びに来てくれたりして、すぐ図書館には感謝しております。もうすぐ時間が終わってしまうので、発言していない方がいらっしゃると思うので、皆さんがどんな活動をしているのか、今日どのような団体が来ているのかすぐ私知りたくて、まだ話していない方に団体名とご意見をぜひお話してもらいたいと思います。

利用者 今日は朗読の会いずみとして参加しています。週に2回会議室や視聴覚で朗読の勉強会をしております。なぜ図書館に来て下さるのに朗読の会には来てくださらないのか、発表会に来てくださらないのかしらという気持ちはあります。もうひとつ私は乳幼児向けのブックスタートです。4か月検診の時に案内チラシを配ってくださっているので、初めて図書館にお子さんを連れてきて、絵本を渡しております。そこから次の段階として、おはなし会に移るように導く活動をしています。いらした方には絵本や手遊びとか、紙芝居などを紹介する事業に携わっています。

利用者 すぐそばにありますそあ季の花保育園の園長をしております。私どもの園は図書館のサービスの恩恵を大変多く受けておりまして、月に1回ほど絵本のよみきか

せにスタッフの方が来てくださっています。それから、ちょうど昨日年長児が夜の保育園というイベントで、7時半ぐらいまで保育園で過ごすというイベントをいたしました。お泊り保育が以前あったのですが、働き方改革でちょっとスタッフの負担が多すぎるとなったため、暗くなるまで園で過ごすということで、昨日は夜空の月や星を見るというイベントでした。その前に、月星の絵本と図鑑を夕方ここに来て何十冊か貸していただいて、懐中電灯でその図鑑を見ながらお月様と星を見ることができました。これも、すぐ近くに図書館がある私たちの園の大きなメリットだなと感じています。また、絵本作家を目指されている高校生で、近隣に住んでいる方が自分で作った絵本を年に2回ぐらいよみかかせに来てくれています。描いたばかりの絵本の原画を見せながらお話をしてくれます。今高校3年生で、大学受験でたぶん絵本のコースの学科に進まれると聞いていますので、練馬区の大泉学園が生んだ絵本作家が新たにまた生まれるのではないか思っています。ということで、地域に根差した図書館の近くにある地域に根差した開かれた保育園づくりをと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

利用者 私は光が丘図書館利用者の会に所属しております。具体的な場所として大泉図書館を使わせていただくことはまずないんですが、練馬区の図書館では、光が丘図書館が受取館であっても、他の図書館所蔵の本が来るようになってますよね。そんなことでほかの図書館についても、どういう図書館が利用者にとってよい図書館なのかをずっと考え続けていますので、こういう機会は逃したくないと思って参加しています。

利用者 今日は代表の都合が悪かったので、私が代理で参りました。皆さんのお話を耳にして、みんな図書館をこんなに愛して、色々心配なさっている方が多いんだなっていうことを痛感いたしました。私たちは短歌の会をやっておりまして、毎月第2第4の木曜日の午前中に集まって自分の作ってきた歌を3首ずつ持ち寄ってみんなで発表して、最後に先生に批評していただいたり直していただいたりして、楽しく活動しております。前はだいぶ大勢いたんですが、みんなそれぞれの理由で辞める方ばかりで入ってくる人は全然ないものですからちょっとさみしいのですが、短歌を愛する人が残って楽しくやっております。

図書館 本日は短い時間ですが、ありがとうございました。ご意見などございましたら、いつでもお声掛けいただければと思います。大泉図書館は、この地域に住む住民の皆さんの願いによって建てられた図書館ですし、図書館への思いはずっと、40年以上経っても続いている図書館だと思います。地域に住む様々な方が幸せに暮らせるためのお手伝いできればと思っています。大泉図書館は地域の皆さんと一緒に歩んでいきたいと思っていますので、これからもよろしく願いいたします。

図書館 貴重なご意見をありがとうございました。以上で本日の懇談会を終了させていただきます。

だきます。本日はありがとうございました。